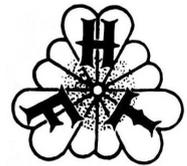


校長室から

校長室だより 第1号
令和2(2020)年4月8日発行
文責 宮城県古川工業高等学校
校長 佐藤 誠



3月の臨時休校に続き、春季休業中も学校活動の自粛が継続し、4月の新年度を迎えて県内でさらに感染拡大の傾向が見えたことから、県教育委員会から、県立高校について、各学校の始業式等終了後、4月14日(火)までの臨時休校が発表されました。

そして、昨日4月7日夕方には、安倍首相が東京・大阪・福岡など7都府県に対し法律に基づく緊急事態宣言を発しました。これにより、指定を受けた都府県では一層の行動制限や店舗の休業が行われるとの報道がされています。また、宮城県内でも、昨日新たに6名の感染が報告され、合計で32名の感染者が出ており、さらに拡大の可能性が示唆されています。

そのような中、本日、予定通り入学式を実施しましたが、保護者の参列も急遽お断りをし、校長の式辞も放送で簡略化して新入生の皆さんにお話ししました。そのため、当初お話しするつもりだった「式辞」を、参列していなかった保護者そして在校生の皆さんにもあらためてお知らせしたいと考え、この「校長室だより」に掲載いたします。ご一読ください。

式 辞

遠くに望む栗駒・舟形の山並みにまだ雪も残る中、春の息吹が木々を芽吹かせ、校門から続く桜の花も咲き誇り、まもなく満開を迎えようとしています。

当初の計画からは縮小・変更となってしまうことが、本日、こうして、令和二年度入学式を予定通りに挙行できますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びであります。

只今、入学を許可いたしました全日制課程二四〇名、定時制課程十四名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、本校の生徒として、今まさに第一歩を踏み出しました。今日の感激と決意を心にきざみ、しっかりと自分の足元を見据えて、新たな生活に臨んでほしいと思います。

そして、新入生の皆さんを、今日まで、慈しみ、育ててこられた保護者の皆様には、心からお祝いを申し上げます。本校の職員一同、必ずや皆様のご期待に応えられるよう、全力を尽くす所存でございます。

本校は、今年、創立八十六年を迎える輝かしい歴史と伝統を誇る、県内有数の工業高校であります。これまで、本校は、昭和三十五年に設置された定時制課程共々、二万名を超える有為な人材を輩出し、専門的な知識や、技能、技術を大いに発揮し、県内外を問わず、まさに産業界の発展に大きく貢献して参りました。

そして、このたび、大いなる夢と希望を抱いて入学した皆さんには、このような本校の歴史と伝統をつなぐ一員として、社会に貢献できる志をもった工業人として、また、本校での学びを通して、専門的な知識と技術・技能を大いに身に付け、将来は、一人ひとりが日本そして世界の産業界を支えるスペシャリストとして、活躍されることを期待するものであります。

本校の象徴である校章は、フルカワ・テクニカル・ハイスクールの頭文字である「F・T・H」を、萩(はぎ)の葉に刻んだもので、これは同時に、校訓をも表しています。「F」はフレンドシップで「友愛」、「T」はトゥルースで「誠実」、「H」はハイ・スピリットの「勇気」とヘルスの「健康」を意味しており、本校の気風・伝統や教育目標を表しています。

本日の入学式にあたり、本校の校訓「友愛、誠実、勇気・健康」の意味するところを、一緒に確認すると共に、私からの歓迎の言葉として贈ります。

まず、「友愛」です。これは、他人への思いやりの心を持つということです。本校には、県内各地から、同じ目標を持った生徒が多く入学して来ます。人は、他者との出会いによって、大きく考え方や生き方が変わることもあります。自分とは異なる他者を認め、他者を受け入れることは、自分自身が他者から受け入れられることにつながります。多くの人と関わり、協力することによって身につく社会性は、社会人として求められる、とても大事な資質の一つです。多くの出会いと、そこから生まれる「友」を大切に、勉強や部活動をとおして、共に競い合い、互いに大きく成長してほしいと思います。

次に、「誠実」です。何事にも真心をもって取り組んでほしいということです。高校の三年間または四年間は、今後の人生の基礎を築くといっても過言ではありません。皆さんは、これから、初めて工業の各専門分野の勉強を始めることとなります。工業高校の特徴は、何と言っても「実習」や「課題研究」です。教科書の内容だけではなく、実際の体験をとおして、すばらしい専門的な知識や技術・技能を身につけることができます。また、難しい資格も取得することができます。ぜひ、何事にもひたむきに取り組み、将来の基礎となる自分づくりに努めてください。

三つ目は「勇気・健康」です。これからの高校生活には様々な困難や課題が待ち構えています。勉強や部活動などで、壁に突き当たることがあるはずですが、決してそこから逃げることなく、投げ出すことなく、たくましく強い気持ちで、立ち向かってください。ひとつの困難を乗り越えるたびに、必ず大きな成長があります。

また、新しいことへ果敢に挑戦する勇気、人の嫌がることにも進んで取り組む勇気、自分の信念を貫く勇気も大切です。ぜひ、志を高く掲げ、多くの経験を積み重ねることで、心身ともにたくましく成長してほしいと願っています。

平成二十三年に東北を襲った東日本大震災から九年が経過しました。未曾有の大震災を目の当たりにした私たちは、自らの被害の大小や有無にかかわらず、何年が経過しようとも、一人ひとりが「今自分にできること」をとおして、復興に尽力するとともに、震災の経験・体験を後世に伝承する責務を自覚して、生きていくことが大切だと考えています。

そして今まさに、感染症の世界的拡大という危機に直面しています。昨日、安倍首相が東京や大阪など七都府県に対し、法律に基づく緊急事態宣言を発しました。また、宮城県内でも、昨日、新たに六名の感染の報告があり、大崎市内で感染した方も含めて既に三十二名の感染者が出ています。まずは、皆さん自身が感染を防止するための行動をしっかりと行うことが大切です。東日本大震災の時と同様に、自覚を持った行動でこの危機を乗り越えていきましょう。

また、明日からも残念ながら休校が続く各小中高校に通う児童生徒にとって、今必要とされているのは、自分に出来ることは何か、今すべきことは何か、を考え、実際に取り組むことです。高校生となった皆さんには、特に、自分から何に取り組む、どのように時間を過ごすのか、が大変重要となります。

普段通りの学校生活であっても、今のような学校に出来ない変則的な生活の中でも、誰に対しても時間は平等に与えられています。その自分が持っている時間をどのように過ごすのか、それを決めるのは皆さん自身です。限られた中かも知れませんが、ぜひ自分を高め、自分を深めるために、積極的に時間を使う取り組みを進めてください。その取り組みが、これから始まる三年間の高校生活に勢いをもたらしてくれるはずです。

本校は、工業高校として「ものづくり」活動に力を入れています。産業社会の基本となる「ものづくり」を支えているのは、これまでも、そして、これからも工業技術者であり、その育成に当たる工業高校です。ものづくりで大切なことは、「最後までやり抜く力」、「最後まで諦めない強さ」です。それは、自分に自信を持ち、物事に責任をもって、最後までやり遂げることであり、私は思っています。

新入生の皆さんには、古川工業高校で学ぶ知識や技術・技能を礎に、最後までやり抜く力、最後まで諦めない強さを身につけ、日本はもとより、世界の工業界で活躍する技術者として、さらには、大震災からの復興・発展の一翼を担う技術者として、羽ばたいて欲しいと、切に願うものであります。

最後になりますが、保護者の皆様には、これからの本校での教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新入生の皆さんには、本校の校訓「友愛、誠実、勇気・健康」の意味するところを噛みしめながら、そして令和に時代を生きる入学生としての誇りを持って、本校での、今後の大いなる活躍と充実した青春時代を送られることを心から祈念して、式辞といたします。

令和二年四月八日

宮城県古川工業高等学校長 佐藤 誠

さて、この後、4月15日（水）から学校を再開する予定で、現在日程の再調整などを行っていますが、県内の感染拡大状況によっては、さらに休校が延長となる可能性もあります。学習のみならず、本校の柱の一つでもある部活動も活動できない日々が続いています。公共施設の休業もあって、それぞれが満足いくような活動は出来ないかも知れませんが、自分一人でもランニングやウエイトトレーニング、その他の各種活動で出来ることがたくさんあると思います。この機会に、自分なりのトレーニングスケジュールを作って取り組んでみることも有効だと思えます。

現在、大リーグに所属する大谷翔平選手が取り組んだ「目標達成シート」（マンダラチャートとも呼ばれている）は有名ですが、自分の考えや目標を明確にし、その達成のために、何を、いつまで、どのように取り組むのか、整理することは、学習・スポーツ・芸術活動・資格取得・その他、すべてについて、皆さんにプラスになると思います。内容ややり方がよく分からない人は、ネット検索すればいくらかでもアドバイスを手に入れることが出来ると思います。ぜひ取り組んでみてください。

学校が再開し、皆さんの元気な姿にまた会えるのを楽しみにしています。